

2015年9月15日
公益財団法人イオン環境財団

豊かな自然環境を守り続けていくために 第4回「生物多様性 日本アワード」受賞の決定について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は、厳正な審査のもと第4回「生物多様性 日本アワード」において5つの優秀賞を決定しました。



第4回「生物多様性 日本アワード」優秀賞

受賞団体名	プロジェクト名
株式会社伊藤園	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み
一般社団法人エゾシカ協会	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業
九州の川の応援団 (九州大学島谷研究室)	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化
特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島	市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ 「ふるさとの川」に再生・復活
気仙沼市立大谷中学校	大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project)

(受賞団体 五十音順)

「生物多様性 日本アワード」は、2010年に日本で生物多様性条約 第10回締約国会議（COP10）が開催されるのに先立ち、生物多様性の保全と持続可能な利用の促進を目的に、当財団が2009年に創設した日本国内の賞です。本アワードは、2010年に創設した国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」と隔年で開催しています。

第4回を迎えた本年は、日本在住の団体・個人の皆さまから、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する126件のプロジェクトを本アワードにご応募いただきました。その中から審査委員会が特に優秀と認めた5つのプロジェクトを顕彰します。

10月20日（火）には、国際連合大学（東京都渋谷区）にて授賞式を開催し、5つの優秀賞の中から特に傑出したプロジェクト1件をグランプリとして発表します。

当財団は水と緑の地球を次代を担う子どもたちに伝えるため、これからもさまざまな社会貢献活動に取り組んでまいります。

【「生物多様性 日本アワード」について】

主 催：公益財団法人イオン環境財団

後 援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

株式会社共同通信社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

応募資格：日本国内に在住する団体・組織・企業・個人

対象の取り組み：生物多様性の保全、持続可能な利用、普及・啓発に貢献するプロジェクト

* グランプリ1件には表彰状と副賞200万円、優秀賞4件には表彰状と副賞100万円がそれぞれ贈呈されます。

授 賞 式：10月20日（火）国際連合大学 ウ・タント国際会議場

* 授賞式の詳細、お申し込みは

公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>まで

ご参考

審査委員

委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団 理事長
委員	赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
委員	岩槻 邦男	東京大学 名誉教授
委員	黒田 大三郎	公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー
委員	香坂 玲	金沢大学 地域創造学類 准教授
委員	竹田 純一	東京農業大学 農山村支援センター 事務局長
委員	あん・まくどなど	上智大学大学院 地球環境学研究科 教授

(五十音順・敬称略)

受賞プロジェクト概要

プロジェクト名	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み		
受賞団体名	株式会社伊藤園	受賞団体所在地	東京都
活動概要	「お茶で琵琶湖を守りたい」という思いから「琵琶湖環境保全活動」を毎年継続実施。この経験を活かし水環境を守る「お茶で日本を美しく。」活動を全国へと拡大。寄付と社員・ボランティアによる実地活動を一体化した。		
プロジェクト名	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業		
受賞団体名	一般社団法人エゾシカ協会	受賞団体所在地	北海道
活動概要	シカ問題が激化した北海道においてシカ肉を適正に利用するため、森林保全に還元する仕組みとなる認証制度創設に取り組む。安心安全なシカ肉の流通により、その資源的価値向上に多大な貢献を果たしている。		
プロジェクト名	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化		
受賞団体名	九州の川の応援団 (九州大学島谷研究室)	受賞団体所在地	福岡県
活動概要	水を媒介とした自然と人の営みが融合するシステムについて研究・環境教育活動を展開。多様な主体との協力により、生物多様性の大切さを多くの人々と共有し、地域活性化につなげている。		
プロジェクト名	市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ「ふるさとの川」に再生・復活		
受賞団体名	特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島	受賞団体所在地	静岡県
活動概要	高度経済成長に伴う環境悪化により1960年代にドブ川となった「源兵衛川」を再生するため、多様な人・団体を巻き込んだ環境改善活動を展開。かつての「ふるさとの川」の水辺環境と生物多様性の復活に貢献した。		
プロジェクト名	大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project)		
受賞団体名	気仙沼市立大谷中学校	受賞団体所在地	宮城県
活動概要	松枯れや磯焼けなどの異変から地域の自然と暮らしを守るため、大谷中学校の生徒達は一人一人が「私にできること」を実践し始めた。この活動は、地域機関や研究機関の協力を得ながら、幼小中連携「大谷ハチドリ計画」へと進展、大きな広がりを見せている。		

(受賞団体名 五十音順)